

(四半期報)

# 最近の京都経済の動き (2023 年秋)

## 【 目 次 】

I. 概 況	_____	p. 1
II. 経済動向	_____	p. 3
1. 需要動向	(1)個人消費	
	①大型小売店販売（百貨店、スーパー）	
	②コンビニエンスストア販売	
	③家電大型専門店販売	
	④主要専門店街売上高	
	⑤自動車販売	
	(2)観光動向	
	(3)住宅投資	
	(4)設備投資、IT投資、研究開発費	
	(5)公共投資	
2. その他の動向	(1)雇用・所得情勢	
	(2)企業倒産	
III. 産業動向	_____	p.13
1. 企業の生産活動等	(1)機械等関連業界	
	(2)和装繊維業界	
2. 京都の企業経営者の景況感		
3. 京都企業における売上高、および経常利益の推移（実数調査結果）		
IV. 京都の主要経済指標	_____	p.18

## I. 概況

- 最近の京都経済は、経済活動の正常化とともに、個人消費では幅広く改善の動きが広がり、観光関連では国内客・訪日客ともに需要が高まっているほか、企業の生産活動は全体として持ち直し基調を維持している。経営者の景況感は、あしもとの受注・需要の減退や仕入価格上昇の影響などから回復が一服している。
- まず、個人消費は、大型小売店販売は観光関連需要を背景に回復が顕著なものの、飲食料品は価格上昇の影響も一部受けている。コンビニエンスストアはコロナ前の水準で安定推移している一方、家電大型専門店販売は巣ごもり特需の反動や節約志向から弱めの動きとなっている。自動車販売は供給制約の緩和とともに持ち直し、コロナ前水準近くまで回復している。
- 京都観光は、国内外の観光客が回復基調で賑わいを取り戻しているものの、人手不足に伴い受け入れ態勢が一部で課題となっている。  
住宅投資は、資材価格・物流費の高騰や地価上昇の影響から、需要がやや低下しており、分譲マンション販売についても弱めの動きとなっている。  
企業の設備投資は、2022年度(実績見込み)は前年度比で3年ぶりの増額となった。2023年度計画は僅かながら2年ぶりの減額計画となっている。  
公共投資は、引き続き、底堅く推移している。
- こうした中であって、企業の生産活動は、電子部品・デバイスが低水準で推移しているものの、業務用機械・電気機械は好調を持続しており、全体としては持ち直し基調を持続している。企業マインド(景況感)は、直近8月調査では、製造業、非製造業ともに悪化しており、あしもとの受注・需要の減退や仕入価格上昇の影響などから回復が一服している。
- この間、雇用・所得情勢は、有効求人倍率は1.2倍で横ばい推移している。一部サービス業では宿泊者数抑制により新規求人見送りの動きも。現金給与総額は、改善が頭打ち。また企業倒産は、件数は増加基調にあるものの、小口中心で金額は低水準で推移。
- 以上のように、京都経済は、着実に持ち直しの動きが広がっている。ただ、経済活動の正常化に伴い、改めて人手不足に起因する課題が顕在化しつつあるほか、倒産件数の増加や物価高の影響など、先行きには注視していく必要がある。

## 《主要各項目の概況（天気図）》

※方向は、概ね3か月前に比べて

- ↗ : 改善
- : 変化なし
- ↘ : 悪化

※水準は

- ☀️ : 良い
- ☀️/☁️ : やや良い
- ☁️ : 普通(良くも悪くもない)
- ☔️/☁️ : やや悪い
- ☔️ : 悪い

	方向	水準	コメント
総合判断	↗	☁️	個人消費は、観光関連を含めて改善の動きが広がっている。企業の生産活動は持ち直し基調を継続。雇用・所得環境は改善が一服している。
個人消費	↗	☀️/☁️	経済正常化に伴い幅広い分野で回復が進み、概ねコロナ禍前の水準に戻っている。
大型小売店販売	↗	☀️/☁️	国内旅行の増加や訪日外国人の需要を受けて回復顕著。コロナ禍前の水準で推移。飲食料品は価格上昇の影響も。
コンビニエンスストア販売	↗	☀️	コロナ前の水準で安定推移している。
家電大型専門店販売	↘	☀️/☁️	このところは前年割れで弱めの動きが続く。
自動車販売	↗	☁️	乗用車・軽自動車ともに供給制約の緩和に伴い持ち直し。コロナ禍前の水準近くまで回復している。
観光動向	↗	☀️/☁️	京都市内主要ホテルでは、国内外の観光客が回復基調で賑わいを取り戻している。人手不足で受け入れ態勢の課題も。
住宅投資	↘	☁️	新設住宅着工、分譲マンション販売ともに弱めの動き。建設資材価格や地価の上昇による影響も。
設備投資	→	☁️	2022年度実績見込みは前年度比で3年ぶりの増額。2023年度計画は僅かながら2年ぶり減額計画。
公共投資	↗	☁️	引き続き底堅く推移している。
雇用情勢	→	☀️/☁️	有効求人倍率は1.2倍で横ばい推移。所得面は改善の動きが一服。一部では新規求人見送りの動きも。
企業倒産	↗	☀️/☁️	件数は増加基調も、小口倒産が中心で水準は抑制されている。
企業の生産活動	↗	☁️	業種によるばらつきがあるが、全体としては基調は持ち直し。
京都の企業経営者の景況感(自社業況判断)	↘	☁️	8月調査では、全産業DIは4ポイント悪化(▲13)で2四半期ぶりにマイナス幅拡大。製造業・非製造業ともに悪化し、回復傾向に一服感。

## II. 経済動向

### 1. 需要動向

#### (1) 個人消費

～ 全体として、持ち直しを継続している ～

##### ① 大型小売店販売（百貨店、スーパー）

～百貨店売上高は、衣料品・身の回り品が好調で持ち直しの勢いを強めている。

スーパー売上高は、主力飲食料品が好調で持ち直しを継続。

百貨店・スーパー合計では、着実に持ち直している。～

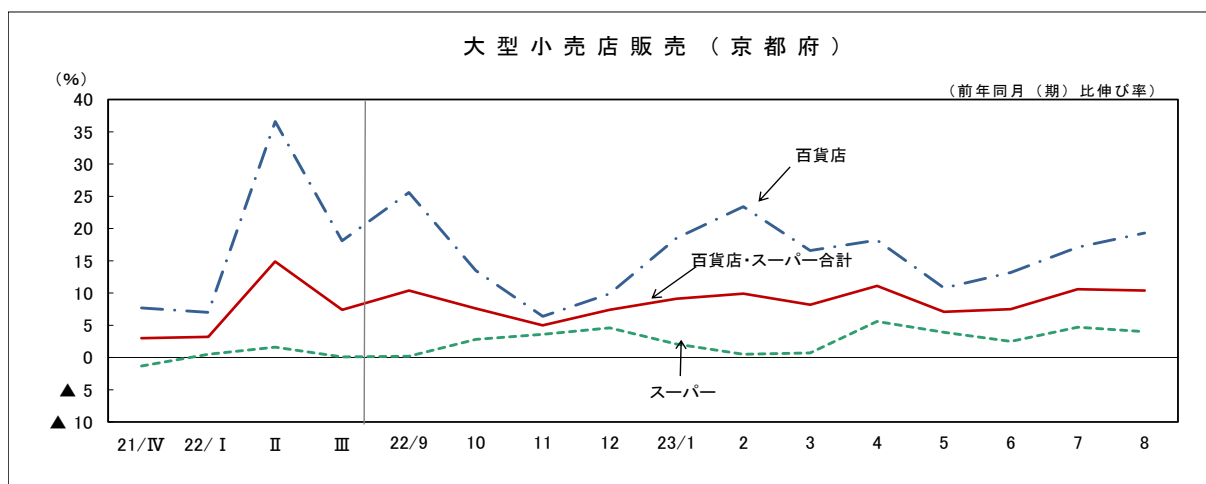
大型小売店販売の推移をみると、まず、**百貨店の売上高**（既存店ベース、4百貨店5店舗）は夏季休暇に伴う国内旅行の増加やインバウンド需要の高まりにより、衣料品や高額なブランド品などの身の回り品が好調に推移し、回復の勢いを増している。

一方、**スーパー売上高**（既存店ベース）は、気温高で盛夏商材（アイス・飲料等）が好調なほか、価格上昇の影響も加わり主力の飲食料品を中心に順調に推移している。

以上の結果、**百貨店+スーパーの合計売上高**（既存店ベース）は、経済活動の正常化に伴う外出機会の増加、インバウンド需要の回復により持ち直している。衣料品（6月；+12.9%、7月；+15.8%、8月；+21.2%）は増勢を強め、飲食料品（6月；+3.3%、7月；+4.1%、8月；+5.7%）は堅調に推移している。

<百貨店、スーパー 売上高推移> (既存店ベース 前年同月(期)比増減,%)

	22/10~12	23/1~3	4~6	6月	7月	8月
百貨店売上高	9.7	19.2	14.0	13.2	17.1	19.3
スーパー売上高	3.7	1.1	4.0	2.5	4.7	4.0
百貨店+スーパー	6.7	9.0	8.5	7.5	10.6	10.4



② コンビニエンスストア販売

～コロナ前の水準で安定推移している～

コンビニエンスストア販売額（全店ベース）は、8 ヶ月連続で前年を上回り、コロナ前の水準で安定推移している。

<コンビニエンスストア販売額推移（府内 1,051 店舗）>

	22/10～12	23/1～3	4～6	23/6月	7月	8月
前年同期比(%)	▲0.1	5.6	6.0	6.1	8.0	8.8

③ 家電大型専門店販売

～弱めの動きが続いている～

家電大型専門店販売額（全店ベース）は、巣ごもり特需の反動と節約志向の影響もあり、このところマイナス基調で推移しており、弱めの動きとなっている。

<家電大型専門店売上高推移（府内 53 店舗）>

	22/10～12	23/1～3	4～6	23/6月	7月	8月
前年同期比(%)	1.8	▲2.7	▲4.5	▲8.5	3.3	▲2.8

④ 主要専門店街（ファッションビル）売上高

～京都駅周辺 2 施設の商況は、引き続き観光客が増加し、回復している～

京都駅周辺の主要専門店街（ファッションビル）の商況を見ると、猛暑が夏物を動かし、また、インバウンド需要増加の影響により、好調に推移している。

京都駅周辺の A 専門店街では、2021 年 11 月から 22 ヶ月連続で前年を上回り、全業種で 2 桁増が続き、特に土産品が好調。足元ではコロナ前の水準を上回るまで回復している。

一方、同じ京都駅周辺の B 専門店街でも、観光客を含め幅広い層から来館者数が増加しており、コロナ前の 2019 年同月実績超えが続いている。

<主要専門店街（ファッションビル）売上高推移>

(前年同月比増減,%)

	23/2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
京都駅周辺 A 専門店街	139.5	87.9	68.1	68.6	58.7	23.1	25.6
うちファッション衣料	30.2	17.0	17.3	6.3	12.8	20.8	18.1
うち土産品その他物販	176.8	110.6	80.7	91.8	81.5	21.6	24.6
京都駅周辺 B 専門店街	93.0	67.3	44.9	44.5	47.6	36.5	32.5
うちファッション衣料	48.2	17.1	11.6	4.6	12.9	11.4	12.3
うち土産品その他物販	51.8	57.0	39.6	38.3	39.7	21.7	20.6

## ⑤ 自動車販売

～乗用車、軽自動車ともに供給制約は緩和され、回復基調が続いている～

**乗用車**については、半導体不足や部品供給停滞による影響は緩和され、コロナ前の水準に向け持ち直している。

すなわち、普通車（2000cc 超、高級車）と、小型車（2000cc 以下）は、7月に微減となったものの、8月には再び前年比プラスに転じている。

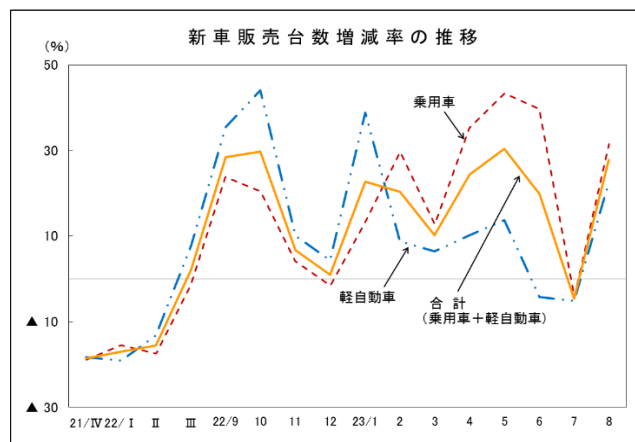
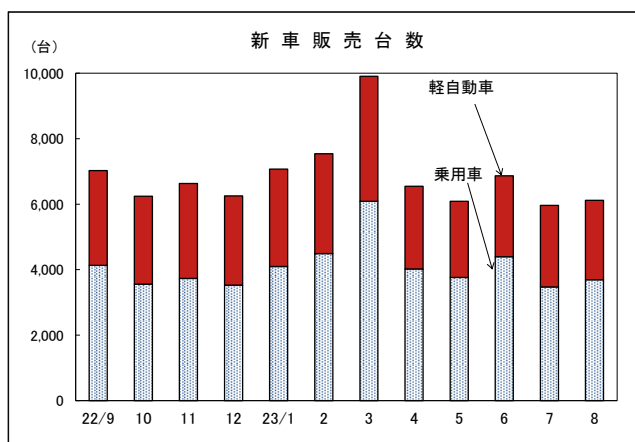
**軽自動車**については、2ヵ月連続前年割れが続くものの直近8月は前年比プラス水準で持ち直している。

**新車販売全体（乗用車＋軽自動車）**でみると、6月；前年比+19.8%、7月；同▲4.6%、8月；同+27.8%と、7月を除くと引き続き2桁水準で前年を上回っている。

### <自動車販売状況>

(前年同月(期)増減, %)

	22/10～12	23/1～3	4～6	23/6月	7月	8月
乗用車販売台数	6.9	17.5	39.3	39.7	▲ 4.2	31.5
うち 普通車	6.3	30.7	52.9	54.9	▲ 6.0	42.8
うち 小型車	7.9	▲ 2.7	16.0	13.1	▲ 1.1	11.6
軽自動車販売台数	16.9	15.4	5.8	▲ 4.3	▲ 5.1	22.5



## (2) 観光動向

～京都市内主要ホテルでは、賑わいを取り戻している。～

観光動向を探る一指標として、**京都市内主要ホテル（16 ホテル）の客室稼働率と宿泊者数**をみると、コロナ禍前の水準には届かないものの、国内外の観光客が増加し、大幅に回復している。

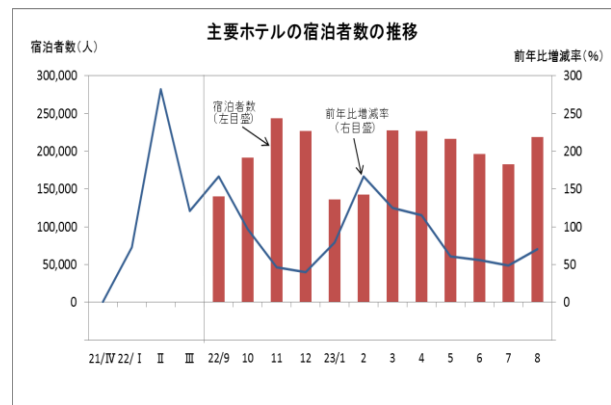
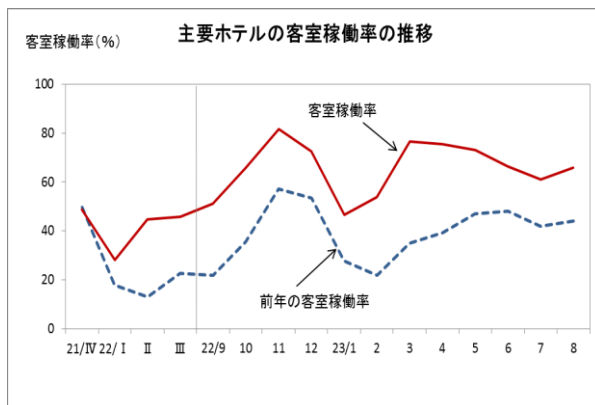
すなわち、**客室稼働率**は、6月以降は3ヵ月連続6割台で、一時の7割超の水準には届かないものの前年比2桁増が続く。客室稼働率の伸び悩みの背景は、コロナ禍前からの宿泊施設の新規開業に伴う供給過剰が一因とされている。

**宿泊者数**については、日本人客、外国人客ともに回復が続いている中、8月10日には中国政府が日本への団体旅行を約3年半ぶりに解禁し、今後さらに増加が見込まれる。

インバウンド需要の完全復活を待ち望んでいた京都の観光事業者からは中国の団体旅行解禁は歓迎の声があがり、コロナ禍前の水準を上回る賑わいとインバウンド消費の拡大に期待を高める。一方で、コロナで一旦離れた従業員が戻ってないため人手不足がさらに深刻化する恐れがあり、宿泊施設等は受け入れ態勢に課題が残る。

＜京都市内主要ホテル（14 ホテル）の客室稼働率と宿泊者数＞ （単位；% 及び %ポイント）

	22/10～12	23/1～3	4～6	23/5月	6月	7月	8月
客室稼働率	73.3	58.7	71.6	73.0	66.3	60.9	65.7
前年比	24.7	30.5	26.7	25.9	18.2	18.9	21.6
宿泊者数(前年比)	55.7	119.6	74.8	61.0	55.8	48.8	70.6
うち外国人客	9,011.2	15,048.8	6,719.9	5,963.8	4,322.4	2,980.5	1,567.6



### (3) 住宅投資

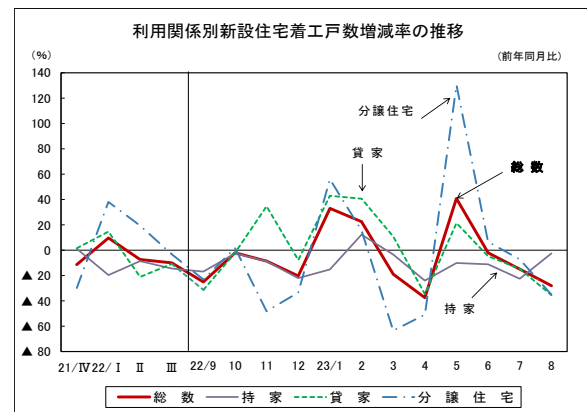
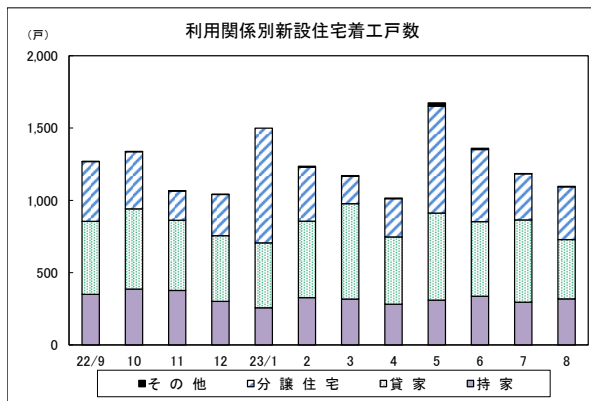
～新設住宅着工、分譲マンション販売は、このところ弱めの動きで推移している。～

京都府内の**新設住宅着工戸数**は、月によるばらつきがあるものの、このところは弱めの動きで推移している。

用途別では、**持家**は、300戸内外で前年割れ基調で推移している。

**貸家**は、このところは500戸内外で前年割れが続いている。一方、**分譲住宅**については、分譲マンションが月による振れ幅が大きいですが、分譲一戸建は200戸内外の横ばい圏内で推移している。全体でも月によるばらつきが大きいですが、マイナス基調で推移している。

建設資材価格の高騰や地価の上昇によって、不動産価格の上昇傾向が続いており、市内の分譲マンションでは1戸あたり面積の縮小もみられる。



#### 新設住宅着工

(前年同期(月)比%)

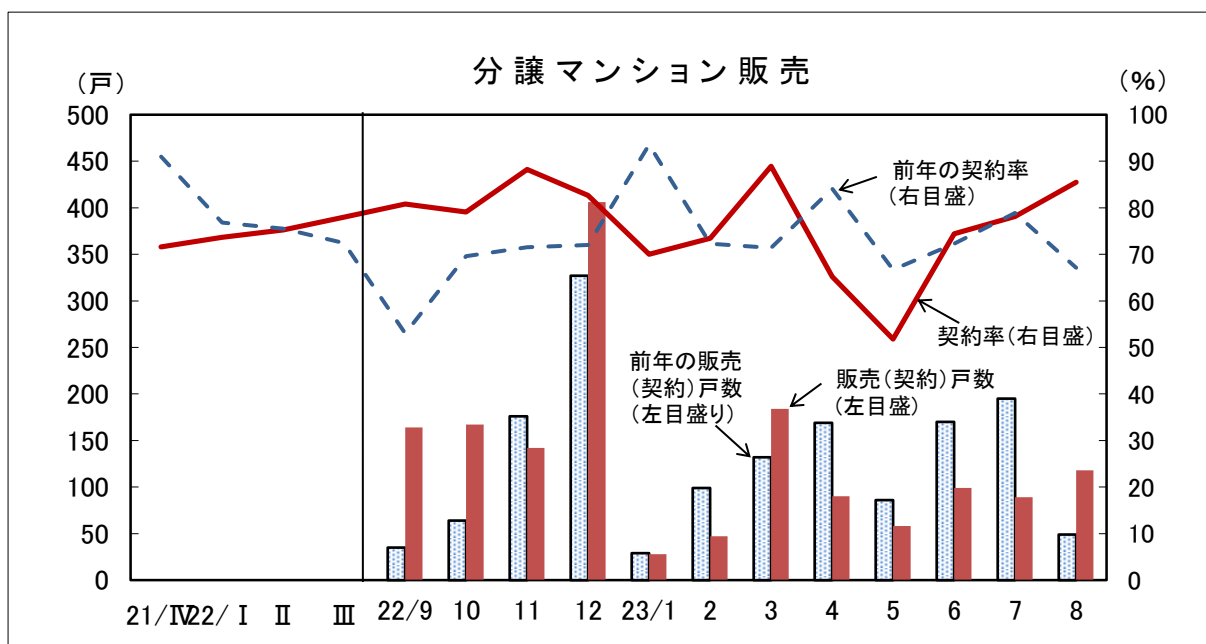
	総数	持家	貸家	分譲住宅	うちマンション
22/10～12	▲10.2	▲11.0	5.3	▲26.9	▲47.2
23/1～3	9.0	▲2.3	27.5	0.3	6.3
4～6	▲3.6	▲15.2	▲9.5	13.2	41.7
23/6月	▲2.1 (1,360戸)	▲11.1 (337戸)	▲4.8 (516戸)	6.6 (498戸)	37.6 (322戸)
7月	▲14.9 (1,185戸)	▲22.5 (296戸)	▲14.6 (569戸)	▲7.3 (319戸)	▲35.3 (99戸)
8月	▲28.0 (1,096戸)	▲2.5 (318戸)	▲35.4 (411戸)	▲35.0 (364戸)	▲54.8 (161戸)



**分譲マンション販売状況**については、弱めの動きが続いている。

すなわち、販売（契約）戸数の動きをみると、原材料費や工事費、人件費の高騰で分譲価格の上昇の影響により、足元では弱めの動きで推移している。年明け以降は3月と8月を除くと契約戸数は100戸に届かず、前年比2桁減の月が目立つ。

契約率については、6月以降は単身向けの完売が続き、目安となる70%を超えて堅調に推移している。



**分譲マンション販売状況（京都府）**

	初月販売（契約）		契約率	
	戸数	前年比 (%)	(%)	前年比 (%ポイント)
22/10～12	715	26.1	82.9	11.3
23/1～3	259	▲ 0.4	83.3	9.6
4～6	247	▲41.9	64.5	▲10.7
23/ 5月	58	▲32.6	51.8	▲14.9
6月	99	▲41.8	74.4	2.1
7月	89	▲54.4	78.1	▲ 0.8
8月	118	140.8	85.5	18.4

#### (4) 設備投資、IT投資、研究開発費

「第122回京銀クォーターリー・サーベイ（8月調査）」による京都企業の設備投資、IT投資、研究開発費の実数を中規模企業、小規模企業について集計すると、以下の通りである（大規模企業は集計に含めていない）。

設備投資については、2022年度の実績(回答社数180社)は、前年度比+29.1%と3年ぶりの増額となった。製造業(同+19.2%)は3年ぶり、非製造業(同+57.1%)は2年ぶりの増額となった。

2023年度計画(回答社数169社)については、前年度比▲1.6%と2年ぶりの減額計画となっている。製造業(同+17.1%)は2年連続の増額計画、非製造業(同▲34.8%)は2年ぶりの減額計画となっている。

《設備投資の動き》		(前年度比増減率:%)			
		2021年度実績	2022年度実績	2023年度計画	
全	産 業 ( 180 社 )	▲ 42.7	+29.1	▲ 1.6	169 社
	製 造 業 ( 101 社 )	▲ 34.7	+19.2	+17.1	94 社
	非 製 造 業 ( 79 社 )	▲ 59.2	+57.1	▲ 34.8	75 社
	中 規 模 企 業 ( 49 社 )	▲ 43.4	+51.7	▲ 0.5	47 社
	小 規 模 企 業 ( 131 社 )	▲ 40.9	▲ 12.6	▲ 5.1	122 社
(参考)					
	(大規模企業) ( 8 社 )	+40.9	+8.0	+40.0	6 社

IT投資については、2022年度の実績(回答社数161社)は、前年度比▲26.1%の減額となった。製造業(同▲0.5%)、非製造業(同▲51.8%)ともに減額となった。

2023年度計画(回答社数151社)については、前年度比+43.4%と増額を計画している。製造業(同+49.0%)、非製造業(同+31.9%)ともに増額計画となっている。

《IT投資の動き》		(前年度比増減率:%)			
		2021年度実績	2022年度実績	2023年度計画	
全	産 業 ( 161 社 )	▲ 16.9	▲ 26.1	+43.4	151 社
	製 造 業 ( 85 社 )	▲ 25.9	▲ 0.5	+49.0	81 社
	非 製 造 業 ( 76 社 )	+24.3	▲ 51.8	+31.9	70 社
	中 規 模 企 業 ( 43 社 )	▲ 11.8	+0.1	+63.6	42 社
	小 規 模 企 業 ( 118 社 )	▲ 33.6	▲ 56.1	▲ 0.3	109 社
(参考)					
	(大規模企業) ( 7 社 )	+5.1	+62.6	+14.2	5 社

研究開発費については、2022年度の実績(回答社数155社)は、前年度比+2.5%の増額となった。製造業(同+2.3%)、非製造業(同+13.5%)ともに増額となった。

2023年度計画(回答社数146社)については、前年度比+7.9%と増額を計画している。製造業(同+7.6%)、非製造業(同+40.0%)ともに増額計画となっている。

《研究開発費の動き》		(前年度比増減率:%)			
		2021年度実績	2022年度実績	2023年度計画	
全	産 業 ( 155 社 )	+2.2	+2.5	+7.9	146 社
	製 造 業 ( 83 社 )	+1.9	+2.3	+7.6	79 社
	非 製 造 業 ( 72 社 )	+27.3	+13.5	+40.0	67 社
	中 規 模 企 業 ( 43 社 )	+2.3	+1.5	+8.2	40 社
	小 規 模 企 業 ( 112 社 )	▲ 2.2	+24.8	+3.9	106 社
(参考)					
	(大規模企業) ( 7 社 )	+29.2	▲ 1.9	+17.7	5 社

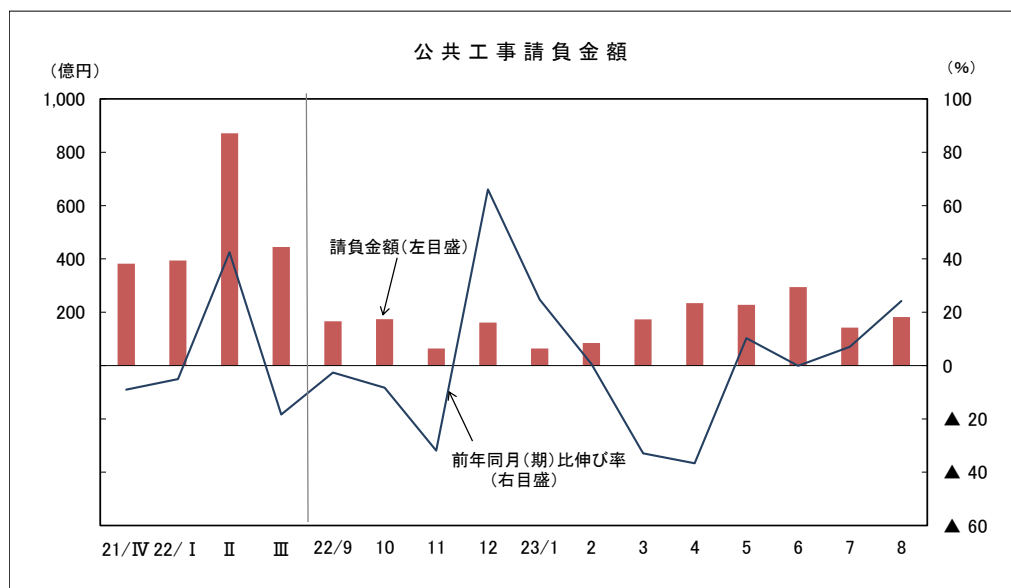
## (5) 公共投資

～引き続き、底堅く推移している～

**公共工事請負額**は、新名神高速道路の整備に関する工事等が進み、堅調に推移している。

すなわち、前年比プラス基調で推移している中で、6月は微減に転じたものの、直近8月は2桁増まで拡大し水準としては底堅く推移している。

なお、発注者別の動向(23/4月～23/8月までの5ヵ月間)でみると、京都府、その他市町村からの請負額は前年を上回っているものの、国、独立行政法人、京都市からの請負額は前年を下回り、全体では前年同期比▲6.0%減となっている。



### <公共工事請負額 (京都府)>

	22/10～12	23/1～3	4～6	23/5月	6月	7月	8月
請負額(億円)	400	323	757	228	294	142	182
前年同期比(%)	4.8	▲18.1	▲13.1	10.3	▲0.1	7.0	24.2

### <発注者別工事請負額の対前年(同期)比増減>

(%)

	国	独立行政法人	京都府	京都市	その他市町村	合計
21年度 (21/4～22/3)	▲1.9	▲69.1	▲7.2	▲8.0	▲15.8	▲28.9
22年度 (22/4～23/3)	▲25.8	25.1	▲14.5	15.2	▲4.6	5.5
23年度 (23/4～23/8)	▲9.5	▲14.4	32.6	▲25.9	10.3	▲6.0

### 直近3ヵ月の大型請負額

23/6 新名神高速道路城陽第二高架橋東工事	67億9,900万円
23/6 新名神高速道路城陽第三高架橋他1橋	33億3,600万円
23/6 京都市新北庁舎(仮称)新築工事	31億6,700万円
23/8 舞鶴若狭自動車道三国岳トンネル工事	25億300万円

(出典：西日本建設業保証 京都支店より当行加工)

## 2. その他の動向

### (1) 雇用・所得情勢

～有効求人倍率は1.2倍で横ばい、所得環境は改善一服～

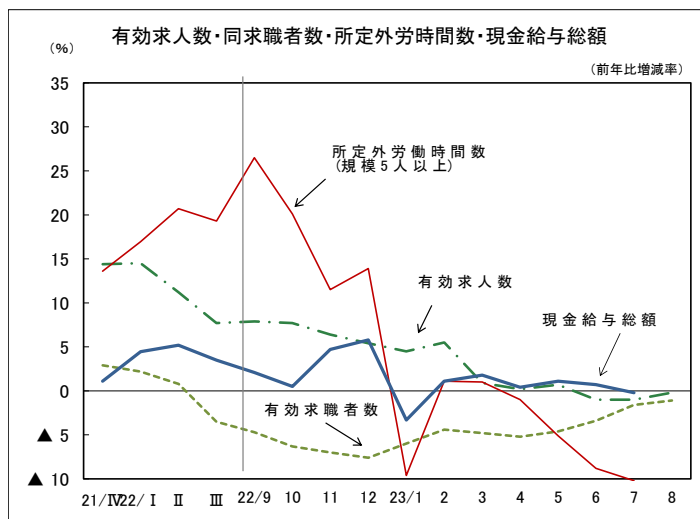
最近の雇用関連指標から京都の雇用・所得情勢をみると、経済活動の正常化とともに、求職者数は減少傾向で推移しているものの、依然として高水準にある。一方、有効求人数は減少に転じている。所定外労働時間はマイナス幅が拡大し、現金給与総額も改善が頭打ちとなっている。

すなわち、**有効求人数**は、2021年5月以降前年を上回っていたが、2023年6月以降、前年割れに転じている。一方、**有効求職者数**は、2022年7月から14ヵ月連続で前年を下回っているが、このところ影響一巡でマイナス幅は縮小している。この結果、**有効求人倍率(季調値)**は、30ヵ月連続1倍台でこのところは1.2倍で横ばい推移している。

なお、**現金給与総額(事業所規模5人以上)**については2月以降前年比プラス基調で推移しているが、直近7月には6ヵ月ぶりに前年割れとなっている。

一方、**所定外労働時間数(同5人以上)**も、4月以降4ヵ月連続で前年割れで、マイナス幅が徐々に拡大している。

以上のように、雇用・所得情勢は、これまでの改善基調を維持し底堅く推移しているものの、サービス業では人手不足の慢性化を背景に伴う宿泊者数を抑制し新規求人を見送る動きがみられるなど、構造的な課題も一部で顕在化しつつある。



## (2) 企業倒産

～件数は増加基調にあるものの、負債金額は低水準で推移～

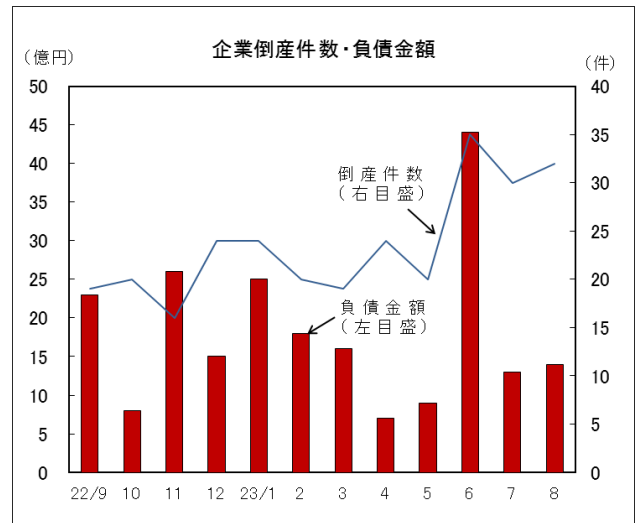
**京都府内の企業倒産（負債総額 1 千万円以上）**は、金額は低水準にあるものの、件数は増加傾向にある。

すなわち、倒産件数は、2022 年 4 月以降は増加基調で推移している中、6 月以降は 3 月連続で 30 件以上の倒産が発生し、増加傾向を鮮明にしている。一方、負債額については、6 月に大口倒産（17 億円）が発生したが、それを除くと小口傾向が続いている。

業種別では、2023 年（1～8 月）の累計では、小売業や飲食・サービス業が 96 件と、全体（204 件）の約 5 割（47.0%）を占め、次いで建設業 31 件（15.1%）、製造業 28 件（13.7%）、卸売業 23 件（11.3%）となっている。

この数か月は、小売業が前年同月を上回っており、近時は小売業の倒産が全体の倒産件数を押し上げている。

2023 年 1～8 月の累計は 204 件で、既に 2021 年（年間実績）の 200 件を超えており、2022 年の 237 件も超える勢いで増勢傾向が強くなっている。



### < 企業倒産の推移 >

	件数		負債額		
		前年同期(月)比%	大型倒産 (うち和装)	(億円)	前年同期(月)比%
22/10～12	60	30.4	1 (0)	50	175.8
23/1～3	63	50.0	0 (0)	59	▲51.3
4～6	79	6.8	1 (0)	61	▲14.1
23/6 月	35	34.6	1 (0)	4,445	114.6
7 月	30	30.4	0 (0)	1,329	▲29.5
8 月	32	68.4	0 (0)	1,436	▲57.0

### Ⅲ. 産業動向

#### 1. 企業の生産活動等

～業種によるばらつきがあるが、全体としては基調は持ち直し～

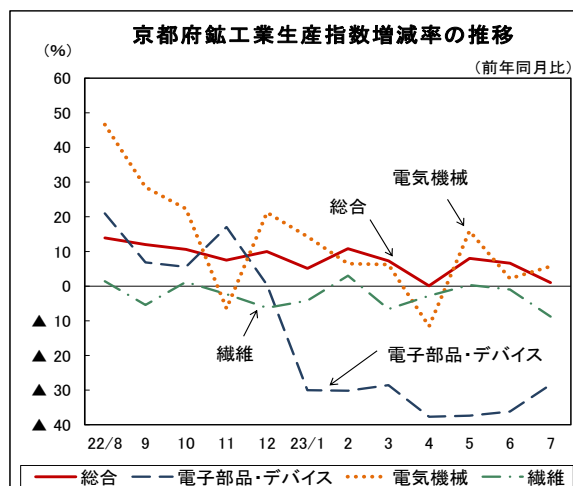
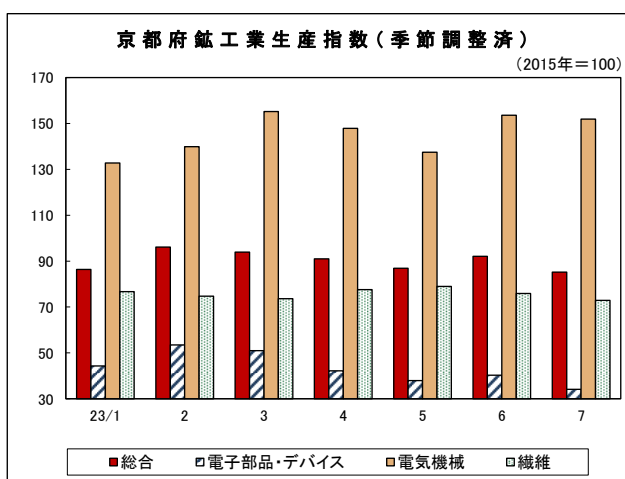
京都府の「鉱工業生産指数」の動きをみると、総合指数（季節調整値 2015=100）は、18 ヶ月連続前年比プラスとなり、原材料価格の高騰や海外経済減速などの影響を受けてはいるものの、全体としては持ち直し基調。

＜京都府鉱工業生産指数の前年比伸び率＞ (％)

	22/10～12	23/1～3	4～6	23/4 月	5 月	6 月	7 月
総合	(88.4) 9.3	(92.1) 7.8	(90.0) 4.7	(91.0) 0.1	(86.9) 8.0	(92.1) 6.6	(85.2) 1.0
うち生産用機械工業	25.1	31.2	0.3	▲10.5	0.8	12.6	▲10.5
うち業務用機械工業	22.3	24.3	18.6	10.3	30.1	17.8	12.1
うち電子部品・デバイス	7.6	▲29.6	▲37.2	▲37.7	▲37.4	▲36.2	▲28.4
うち電気機械工業	11.3	8.8	0.1	▲11.6	15.9	2.2	5.7
うち繊維工業	▲2.4	▲2.8	▲1.3	▲2.8	0.3	▲1.0	▲8.8

※総合の上段（）内は季節調整済指数（2015年=100）

- ・ 機械工業では、電子部品・デバイスが、海外景気の減速等により 40 内外の低水準で推移しており弱めの動きが続いている。生産用機械は、前年比プラス基調で推移しているものの、このところ力強さに欠いている。業務用機械、電気機械については、130～150 前後の水準で好調に推移している。
- ・ 機械工業以外では、食料品・たばこ（7 月；78.5）、プラスチック製品（同 100.7）や化学（同 117.9）は堅調に推移している。
- ・ 一方、繊維工業は、依然として低水準で推移し、下げ止まりを探る動きとなっている。



## (1) 機械等関連業界

機械関連大手主要メーカーの生産活動を概観すれば、————

日本銀行京都支店によれば、まず、「電子部品・デバイスは、自動車向けが堅調に推移しているものの、スマートフォン向けやパソコン向けを中心に、全体として弱めの動きとなっている。」としている。

一方、汎用・生産用・業務用機械では「高水準で推移している」とし、全体的に「幅広い圏内で推移している」としている。

(以上、日本銀行京都支店 2023 年 10 月 11 日発表「管内金融経済概況」より)

## (2) 和装繊維業界

和装繊維関連業界は、減産調整が続き、依然として低調な動きが続いている。

丹後産地（ちりめん）は、前年割れ基調で推移しており、水準としてはコロナ前の 2019 年比 3～4 割減が続いている。

一方、西陣産地（帯地）は、出荷数量ベースで前年割れが続いており、足元では 2 桁減となっている。

<和装繊維関連・各生産量・出荷高・売上高> (前年同月(期)比増減；%)

	丹後産地 ちりめん生産量	西陣帯地	
		出荷数量	出荷金額
22/10～12	▲ 2.0	▲16.1	▲ 6.4
23/1～3	▲ 3.4	1.1	▲ 4.0
4～6	▲ 5.0	▲ 7.9	▲ 6.5
23/5 月	6.1	0.1	6.5
6 月	▲ 7.7	▲ 10.9	▲ 14.5
7 月	▲ 9.3	▲16.1	▲ 10.9
8 月	▲25.0	…	…

## 2. 京都の企業経営者の景況感

全産業DIは、4ポイントの悪化で、2四半期ぶりにマイナス幅が拡大。

製造業、非製造業ともに2四半期ぶりの悪化となり、京都経済全体としては回復傾向に一服感がみられる。

当行が四半期ごとに実施している京都の企業経営者の景況判断調査(京銀クォーターリー・サーベイ '23年8月調査)の結果をみると、以下の通りである。

- 業況判断DI値は、前回5月調査(▲9)から4ポイント悪化の▲13となった。20四半期連続のマイナス(「悪い」超)水準となり、足元では2四半期ぶりに悪化している。製造業が4ポイントの悪化(2四半期ぶり悪化)、非製造業では2ポイントの悪化(2四半期ぶり悪化)となった。
- 業種別にみると、製造業(▲16→▲20)は4ポイントの悪化で、2四半期ぶりの悪化となった。個別業種をみると、木材・木製品(▲40→+20)でマイナス水準からプラス水準に転じた一方、紙加工・印刷(±0→▲24)で中立水準からマイナス水準に転じ、金属製品(▲21→▲35)などでマイナス幅が拡大した。機械業種(▲15→▲22)は、2四半期ぶりに悪化した。輸送機械(▲29→▲29)は横ばいで推移した一方、電気機械(+4→▲8)はプラス水準からマイナス水準に転じ、一般機械(▲19→▲25)、精密機械(▲36→▲38)はマイナス幅が拡大した。  
非製造業(▲3→▲5)は2ポイントの悪化で、2四半期ぶりに悪化した。個別業種をみると、運輸・倉庫業(▲36→+17)、食料品卸(▲17→+17)でマイナス水準からプラス水準に転じた一方、和装繊維卸(▲40→▲80)、小売業(▲8→▲20)でマイナス幅が拡大し、その他卸(+3→▲16)でプラス水準からマイナス水準に転じた。
- 項目別DIでは、受注・需要(▲11→▲18)が悪化したことなどで、売上高(▲10→▲15)、企業収益(▲16→▲20)ともに悪化となった。仕入価格(+69→+62)は3四半期連続でプラス幅を縮小し、販売価格(+31→+23)も2四半期ぶりにプラス幅を縮小しており、価格転嫁の動きは全体的には鈍化している。

雇用(▲30→▲28)では、全体では12四半期連続マイナス(「不足」超)水準と人手不足が続いており、製造業(▲28→▲22)はマイナス幅が縮小した一方、非製造業(▲32→▲34)はマイナス幅が拡大した。

金融機関借入(▲4→▲10)はマイナス(「減少」超)水準が続き、資金繰り(+11→+9)は12四半期連続プラス(「余裕」超)水準で落ち着いている。

- 先行き(3か月後)については、全産業ベースで▲10と3ポイントの悪化を予想している。

### ◎業況判断DI(「良い」と答えた企業の割合－「悪い」と答えた企業の割合)

	(社数)	2022年		2023年		
		11月	2月	5月	8月 (前回予想)	11月(予想)
全産業	357	▲13	▲22	▲9	▲13 (▲10)	▲10
製造業	187	▲20	▲29	▲16	▲20 (▲17)	▲11
非製造業	170	▲7	▲15	▲3	▲5 (▲3)	▲8
大規模企業	10	▲20	▲50	▲33	▲30 (▲22)	▲20
中規模企業	80	▲5	▲17	▲10	▲19 (▲16)	▲26
小規模企業	267	▲16	▲22	▲8	▲11 (▲8)	▲4

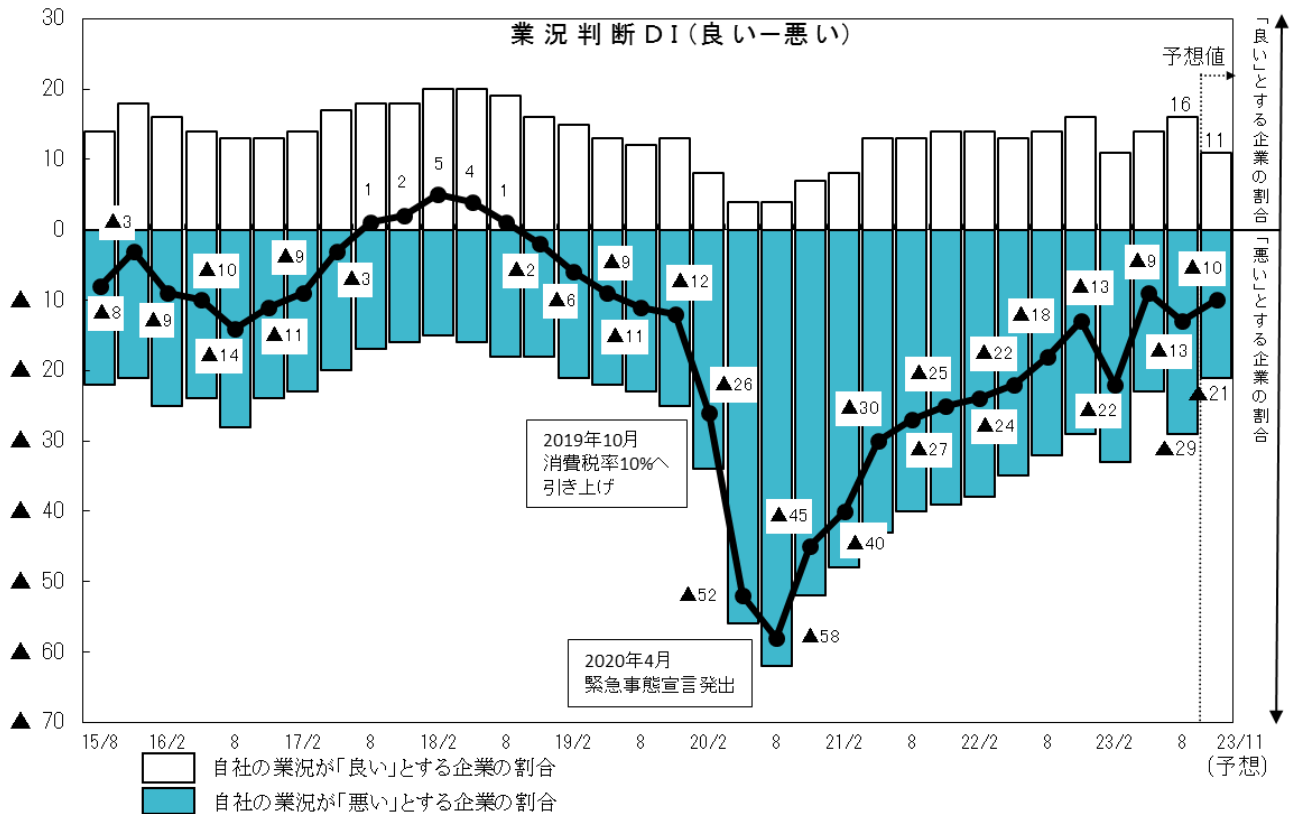


- 以上のように、足元の受注・需要の後退や仕入価格上昇の影響が幅広い業種に広がり、製造業、非製造業ともに回復が一服する結果となった。今後も人流回復や外国人観光客の増加に伴う消費拡大が期待される一方で、資材不足、エネルギーを含めた物価高、人手不足の影響、中国経済の下振れリスクなど、先行き不透明感の強い状況が続いている。

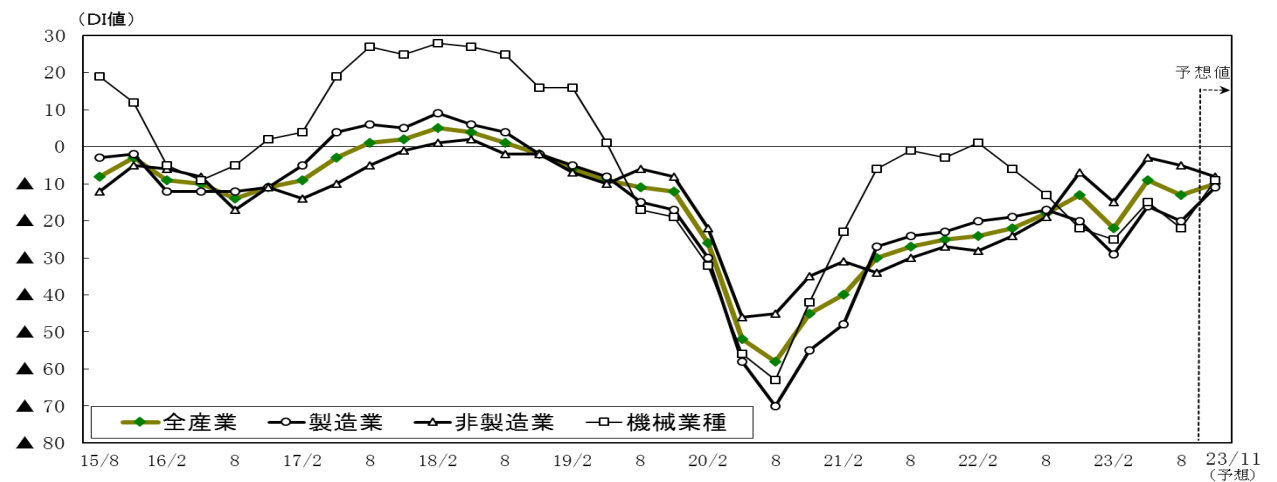
### 京都企業の業況判断DI推移

(「良い」企業の割合 — 「悪い」企業の割合)

「第122回京銀クォーター・サーベイ(5月調査結果)」より



### 業況判断DIの推移(業種別)



### 3. 京都企業における売上高、および経常利益の推移（実数調査結果）

「第122回京銀クォーターリー・サーベイ（8月調査）」による京都企業の売上高、経常利益の実数を中規模企業、小規模企業について集計すると、以下の通りである。（大規模企業は集計に含めていない。）

まず、**売上高**については、2022年度の実績（回答社数251社）は、前年度比+9.9%と2年連続の増収となった。製造業（同+10.4%）、非製造業（同+9.6%）ともに2年連続の増収となった。

2023年度計画（回答社数229社）については、前年度比+2.1%と3年連続の増収を計画している。製造業（同+5.4%）は3年連続の増収計画、非製造業（同▲0.3%）は3年ぶりの減収計画となっている。

一方、**経常利益**では、2022年度の実績（回答社数234社）は、前年度比+10.6%と3年連続の増益となった。製造業（同+3.3%）は3年連続、非製造業（同+23.7%）は2年連続の増益となった。

2023年度計画（回答社数208社）については、前年度比+3.4%と4年連続の増益を計画している。製造業（同+11.3%）は4年連続の増益計画となっている一方、非製造業（同▲6.3%）は3年ぶりの減益計画となっている。

（前年度比増減率：％）

《売上高の動き》

		2021年度実績	2022年度実績	2023年度計画	
全	産 業（251社）	+8.0	+9.9	+2.1	229社
	製 造 業（134社）	+5.4	+10.4	+5.4	124社
	非 製 造 業（117社）	+9.6	+9.6	▲0.3	105社
	中規模企業（65社）	+10.0	+11.3	+2.4	59社
	小規模企業（186社）	+3.0	+6.8	+1.4	170社
（参考）					
	（大規模企業）（10社）	+13.6	▲0.9	+2.5	9社

（前年度比増減率：％）

《経常利益の動き》

		2021年度実績	2022年度実績	2023年度計画	
全	産 業（234社）	+36.0	+10.6	+3.4	208社
	製 造 業（126社）	+40.8	+3.3	+11.3	111社
	非 製 造 業（108社）	+29.8	+23.7	▲6.3	97社
	中規模企業（58社）	+39.6	+4.6	+8.1	55社
	小規模企業（176社）	+25.9	+28.6	▲9.3	153社
（参考）					
	（大規模企業）（10社）	+74.8	▲23.7	+25.2	8社

#### IV. 京都の主要経済指標

項目 年 期 月	個人消費関連							
	百貨店売上高 (京都市内4百貨店)		スーパー売上高 (京都府内72か店)		コンビニエンスストア 売上高(府内1,051店)		家電大型専門店売上高 (京都府内53か店)	
	(百万円)	前年比 %	(百万円)	前年比 %	(百万円)	前年比 %	(百万円)	前年比 %
2013	241,491	▲ 0.1	258,693	▲ 1.5	...	...	...	...
14	243,390	0.8	263,602	0.8	...	...	98,742	...
15	237,270	1.1	265,217	▲ 1.9	...	...	95,162	▲ 3.6
16	232,279	▲ 2.1	257,809	▲ 0.6	208,489	...	90,816	▲ 4.6
17	238,591	2.7	252,679	▲ 0.0	213,264	2.3	93,935	3.4
18	237,990	▲ 0.3	249,038	▲ 0.9	218,364	2.4	94,609	0.7
19	242,265	1.8	242,774	▲ 1.5	224,602	2.9	95,935	1.4
20	175,620	▲ 27.5	246,633	▲ 1.9	208,320	▲ 7.2	93,983	▲ 2.0
21	186,651	6.3	248,042	▲ 1.2	211,605	1.7	95,547	1.7
22	217,215	16.4	252,507	1.5	220,406	4.2	97,171	1.7
22/1~3	47,779	7.0	61,844	0.5	51,264	5.1	25,467	5.7
4~6	50,908	36.6	62,022	1.6	54,807	7.5	22,409	0.6
7~9	50,743	18.1	62,263	0.1	56,645	4.8	24,043	▲ 1.3
10~12	67,785	9.7	66,378	3.7	57,690	▲ 0.1	25,252	1.8
23/1~3	56,934	19.2	62,697	1.1	54,123	5.6	24,785	▲ 2.7
4~6	58,021	14.0	64,274	4.0	58,118	6.0	21,391	▲ 4.5
22/9	16,991	25.6	20,008	0.2	18,262	3.5	8,013	7.4
10	18,918	13.5	20,913	2.8	18,981	7.2	7,464	4.4
11	21,060	6.4	21,209	3.6	18,789	6.7	7,466	▲ 0.6
12	27,807	9.9	24,256	4.6	19,920	▲ 11.2	10,322	1.7
23/1	19,140	18.5	22,465	2.1	18,035	1.1	8,510	▲ 0.7
2	16,563	23.4	19,620	0.5	16,645	7.9	7,322	2.1
3	21,230	16.6	20,612	0.7	19,443	8.0	8,953	▲ 7.8
4	18,844	18.2	21,864	5.6	19,254	4.3	7,258	▲ 0.0
5	19,148	10.8	21,454	3.9	19,598	7.8	6,953	▲ 4.6
6	20,029	13.2	20,956	2.5	19,266	6.1	7,180	▲ 8.5
7	21,782	17.1	21,805	4.7	20,939	8.0	8,841	3.3
8	18,078	19.3	22,018	4.0	20,665	8.8	7,253	▲ 2.8

(注) 百貨店、及びスーパー売上高の前年比増減率は既存店ベース(金額は全店ベース)。  
 2010年9月以降は5百貨店7店舗、2014年10月以降は4百貨店6店舗。  
 2014年8月以降は経済産業省発表値。2019年4月以降は4百貨店5店舗。  
 コンビニエンスストア売上高、家電大型専門店売上高は金額、前年比増減率ともに全店ベース。

項目 年 期 月	個人消費関連					新設住宅 着工戸数		公共工事 請負額	
	乗用車(除く軽) 販売台数		観光関連(京都市内16ホテル)			戸数(戸)	前年比%	(億 円)	前年比%
	(台)	前年比%	客室稼働率		宿泊者数				
			(%)	前年比 %ポイント	前年比%				
2013	52,713	▲ 4.2	85.1	1.5	3.2	18,812	22.1	2,132	10.2
14	53,103	0.7	86.3	1.2	3.9	17,600	▲ 6.4	2,269	6.4
15	51,824	▲ 2.4	87.2	0.9	3.7	17,644	0.3	1,848	▲ 18.6
16	52,674	1.6	87.1	▲ 0.1	1.3	17,017	▲ 3.6	2,075	12.3
17	55,518	5.4	88.3	1.2	7.1	14,790	▲ 13.1	1,766	▲ 14.9
18	55,083	▲ 0.8	86.2	▲ 2.1	▲ 1.6	14,704	▲ 0.6	1,991	12.7
19	54,156	▲ 1.7	85.4	▲ 0.8	▲ 6.6	15,600	6.1	2,124	6.7
20	47,939	▲ 11.5	34.4	▲ 51.1	▲ 62.5	15,592	▲ 0.1	2,645	24.5
21	46,214	▲ 3.6	26.0	▲ 8.4	▲ 24.7	16,286	4.5	1,955	▲ 26.1
22	42,619	▲ 7.8	48.4	22.4	98.5	15,416	▲ 5.3	2,111	8.0
22/1~3	12,492	▲ 15.5	28.2	10.3	73.3	3,582	9.7	394	▲ 5.1
4~6	8,743	▲ 17.4	44.8	31.8	282.3	4,203	▲ 7.3	871	42.5
7~9	10,567	▲ 1.4	45.7	23.1	120.9	4,183	▲ 10.0	445	▲ 18.4
10~12	10,817	6.9	73.3	24.6	55.7	3,448	▲ 10.2	400	4.8
23/1~3	14,678	17.5	58.7	30.5	119.6	3,906	9.0	323	▲ 18.1
4~6	12,178	39.3	71.6	26.7	74.8	4,050	▲ 3.6	757	▲ 13.1
22/9	4,132	23.8	51.1	29.3	166.8	1,269	▲ 25.1	166	▲ 2.6
10	3,559	20.5	65.7	30.2	97.1	1,339	▲ 2.0	174	▲ 8.3
11	3,730	4.2	81.7	24.5	46.6	1,067	▲ 8.6	64	▲ 31.9
12	3,528	▲ 1.6	72.6	19.3	40.2	1,042	▲ 20.3	161	66.1
23/1	4,097	13.1	46.5	18.8	79.0	1,499	33.0	64	24.7
2	4,493	29.6	53.9	32.0	166.7	1,236	22.5	85	0.6
3	6,088	12.7	76.4	41.6	125.2	1,171	▲ 19.0	173	▲ 32.9
4	4,021	35.3	75.4	36.2	115.1	1,016	▲ 37.5	234	▲ 36.6
5	3,762	43.4	73.0	25.9	61.0	1,674	40.8	228	10.3
6	4,395	39.7	66.3	18.2	55.8	1,360	▲ 2.1	294	▲ 0.1
7	3,474	▲ 4.2	60.9	18.9	48.8	1,185	▲ 14.9	142	7.0
8	3,693	31.5	65.7	21.6	70.6	1,096	▲ 28.0	182	24.2

(注)ホテル稼働率・宿泊者数は、2013年1月以降は13ホテルベース。  
2013年5月以降は14ホテルベース。2014年4月以降は15ホテルベース。  
2015年1月以降は14ホテルベース。2016年2月以降は13ホテルベース(1ホテル改装のため休業)。  
2016年9月以降は14ホテルベース。2021年5月以降は16ホテルベース。

項目 年 期 月	雇 用 関 連		企 業 倒 産			鉱 工 業 生 産 指 数 (季 節 調 整 済)			
	有 効 求 人 倍 率	現 金 給 与 総 額	件 数	負 債 額		総 合		(電 子 部 品・ デ バ イ ス)	(電 気 機 械)
				( 億 円 )	前 年 比 %	2015 年 =100	前 年 比 %		
	( 倍 )	前 年 比 %	( 件 )	( 億 円 )	前 年 比 %	2015 年 =100	前 年 比 %	前 年 比 %	前 年 比 %
2013	0.81	…	376	531	20.0	91.4	▲ 8.0	30.4	▲ 49.2
14	0.94	…	306	494	▲ 6.8	98.1	7.3	8.8	22.3
15	1.06	…	230	279	▲ 43.5	100.1	2.0	▲ 22.7	22.4
16	1.20	…	227	417	49.1	98.4	▲ 1.5	▲ 10.7	▲ 25.6
17	1.35	…	240	167	▲ 59.8	96.4	▲ 2.2	9.0	▲ 9.0
18	1.53	…	271	223	33.0	98.0	1.7	▲ 6.6	6.4
19	1.59	…	240	148	▲ 33.3	90.6	▲ 7.7	▲ 6.1	▲ 6.5
20	1.19	…	253	156	4.9	79.9	▲ 11.5	▲ 0.5	19.9
21	1.07	…	200	147	▲ 5.4	82.2	2.8	22.8	▲ 27.4
22	1.19	…	237	317	115.6	86.9	5.8	34.7	0.3
22/1~3	1.12	4.5	42	121	115.2	85.1	1.1	42.4	▲ 11.5
4~6	1.18	5.2	74	71	75.3	85.9	3.0	51.5	3.9
7~9	1.22	3.5	61	76	132.6	88.2	9.7	42.0	4.5
10~12	1.25	3.7	60	50	175.8	88.4	9.3	11.3	7.6
23/1~3	1.23	▲ 0.1	63	59	▲ 51.3	92.1	7.8	8.8	▲ 29.6
4~6	1.22	0.7	79	61	▲ 14.1	90.0	4.7	0.1	▲ 37.2
22/9	1.23	2.1	19	23	60.6	90.0	12.0	28.5	6.8
10	1.25	0.5	20	8	193.7	86.5	10.6	22.3	5.5
11	1.26	4.7	16	26	314.1	87.3	7.5	▲ 6.5	17.0
12	1.26	5.8	24	15	71.1	91.5	10.0	21.3	0.4
23/1	1.25	▲ 3.3	24	25	57.0	86.4	5.1	14.3	▲ 30.0
2	1.24	1.1	20	18	▲ 81.5	96.1	10.8	6.5	▲ 30.2
3	1.21	1.8	19	16	74.2	93.9	7.1	6.2	▲ 28.6
4	1.21	0.4	24	7	▲ 82.0	91.0	0.1	▲ 11.6	▲ 37.7
5	1.23	1.1	20	9	▲ 18.8	86.9	8.0	15.9	▲ 37.4
6	1.22	0.7	35	44	114.6	92.1	6.6	2.2	▲ 36.2
7	1.20	▲ 0.2	30	13	▲ 29.5	85.2	1.0	5.7	▲ 28.4
8	1.22	…	32	14	▲ 57.0	…	…	…	…

(注)現金給与総額は事業所規模5人以上ベース。

項目 年 期 月	丹後白生地 生 産 高		西 陣 帯 地 出 荷 数 量 ・ 金 額			
	<数量ベース>		<数量ベース>		<金額ベース>	
	(千反)	前年比%	(千本)	前年比%	(百万円)	前年比%
2013	433	▲ 4.0	636	▲ 1.4	16,264	2.9
14	400	▲ 7.6	601	▲ 5.6	15,922	▲ 2.1
15	351	▲ 12.2	526	▲ 12.4	14,013	▲ 12.0
16	310	▲ 11.7	488	▲ 7.3	13,254	▲ 5.4
17	294	▲ 5.1	478	▲ 2.2	13,128	▲ 1.0
18	282	▲ 4.2	427	▲ 10.6	12,230	▲ 6.8
19	253	▲ 10.2	380	▲ 11.0	11,108	▲ 9.2
20	154	▲ 39.1	260	▲ 31.5	8,100	▲ 27.1
21	154	▲ 0.5	304	16.6	8,266	2.1
22	159	3.5	282	▲ 5.6	8,008	▲ 3.4
22/1~3	36	6.8	69	1.2	1,906	▲ 7.6
4~6	41	4.5	75	▲ 5.2	2,123	1.0
7~9	40	5.8	67	▲ 8.2	1,901	4.2
10~12	42	▲ 2.0	69	▲ 16.1	2,111	▲ 6.4
23/1~3	34	▲ 3.4	69	1.1	1,830	▲ 4.0
4~6	39	▲ 5.0	69	▲ 7.9	1,984	▲ 6.5
22/9	14	3.3	24	▲ 1.7	694	8.6
10	15	▲ 1.7	23	▲ 11.1	669	▲ 8.1
11	14	1.3	24	▲ 10.5	744	5.4
12	14	▲ 5.5	22	▲ 8.6	697	▲ 18.2
23/1	9	▲ 9.1	25	10.5	616	4.1
2	13	1.1	20	▲ 6.4	561	▲ 7.1
3	12	▲ 3.3	24	▲ 2.5	653	▲ 9.0
4	13	▲ 10.8	23	▲ 10.8	670	▲ 9.4
5	11	6.1	22	0.1	678	6.5
6	13	▲ 7.7	24	▲ 10.9	636	▲ 14.5
7	13	▲ 9.3	18	▲ 16.1	550	▲ 10.9
8	9	▲ 25.0	...	...	...	...